

令和4年度 第1回 まつやま人口減少対策推進会議

運営幹事会 議事概要

(1) 開催日時・会場

開催日時：令和4年5月25日（木） 10:00～11:45

場 所：松山市役所 本館5階 本部会議室

(2) 出席者

「令和4年度 第1回 まつやま人口減少対策推進会議 運営幹事会 出席者名簿」に記載のとおり

(3) 議事

1. 令和3年度決算の認定等について
2. 令和4年度の専門部会の活動状況について
3. 地方創生交付金事業の効果検証について
4. その他

(4) 議事概要

1. 令和3年度決算の認定について

原案どおり認定

2. 令和4年度の専門部会の活動状況について

今年度の取組みについて各専門部会長から説明後、意見交換。

【ライフデザインプロジェクト】

- ・市内4大学で仕事と暮らしの両立について講演する「ライフデザイン出張講座」や、市内の共働き家庭を訪問する「共働きお宅訪問インターシップ」を実施し、家庭を築きながら働くことを学生にイメージしてもらう機会を提供する。
- ・より効果的な情報の発信や事業に繋げるため、プロジェクトに参画してくれる学生を募り、学生と若手社員が共同して学生主導の事業を進めていく。また、出張講座等に登壇する社会人講師の掘り起こしを行うことで、次世代を育てる企業人材を増やし、中堅社員の成長の機会を創出して、継続して次世代を育てる仕組みを構築する。

(質疑・意見)

- ・市内4大学とも同じ社会人講師で出張講座等を実施しているのか。
⇒学生が自分事として考えられるよう大学の専科や授業の目的に合った講師を選定している。
- ・学生の意識改革だけでなく、上の世代がこれまでの働き方、暮らし方の考えを変えることも大切である。
- ・共働きはワークライフバランスを考える一つで、学生に選択肢を教えることが重要である。

【企業の生産性アッププロジェクト】

- ・これまで実施した調査を含め、コロナの影響による企業の ICT 利活用の変容を分析し、IT ツールを使った業務効率化など、デジタル活用の個別支援を実施する。経営デザインの観点から IT ツールを活用するセミナーを開催し、企業の生産性向上に繋がる事業を展開する。
- ・5G などの次世代通信の研究を継続するとともに、高速通信インフラを活用したイベントで実証実験を行い、企業の生産性向上にどのように繋げていくかまとめる。IT インフラが整備され、どこでも高速回線が繋がれば、企業誘致やUターン人材、ワーケーションを呼び込むための強みになる。

(質疑・意見)

- ・全国的な調査によると文系女子大学生の希望職種 1 位は情報処理関係であり、課題となっている若年女性の転出を防ぐためにも IT インフラを整備すると同時に情報系の産業を創出していく必要がある。
- ・日々の働き方にある課題を整理して、デジタル化を進めることは業務効率化に繋がる。

3. 地方創生交付金事業の効果検証について

該当する 8 事業について各事業について事務局から説明後、各委員から意見や質問。

(事務局説明)

令和 2 年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、イベントの中止や観光産業の営業停止など、予定していた事業の実施が困難な状況になる中、オンラインの活用等によりウィズコロナに対応した事業展開や、アフターコロナを見据えた取組みを実施することで、目標値を上回る実績となった事業、概ね目標値を達成した事業もあった。

今後も感染症の状況等を見極めながら、各事業に設定された目標が達成されるよう取り組んでいく。

(各委員からの質問・意見)

- ・婚活事業は就労支援や事業後継者対策とも連携して、男性を対象に松山への移住促進としての取組みをしてはどうか。
- ・地産地消を含むブランド事業は重要な取組みであり、広域や圏域に拡大し、更なる一次産品のブランド化を進めていくことが必要である。また、首都圏で販路を拡大するためには、首都圏の産品イメージに合わせたブランディングが必要となる。
- ・飲食やホテル業界では、感染症対策に要する業務が増加している中、営業自粛など流動的な人手確保の方法に苦労している。新卒の採用状況をみると、コロナ後、首都圏に若者が流れ、地方の人手不足は深刻な状況に陥ることが予想される。若者流出を防ぐ取組みが必要である。
- ・事業目的に合った指標を設定し、事業内容についても目的や目標を分かりやすい言葉で表現してほしい。

4. その他について

(事務局説明)

- ・各専門部会長には、令和 4 年度まつやま人口減少対策推進会議総会に出席してもらい、部会活動の報告をしてほしいと考えている。よろしくお願ひしたい。